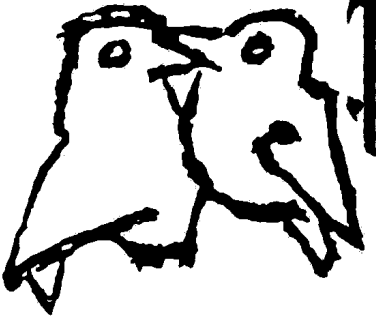
武者小路實篤全集

武安宏馬路全集



苏州工业学院图书馆
藏书章

第十二卷

武者小路實篤全集　第十二巻

一九八九年一〇月二〇日　初版第一刷発行

著者――武者小路實篤
発行者――相賀徹夫
発行所――小学館
〒一〇一-〇〇一　東京都千代田区一ッ橋二丁目三番一号
振替　東京八―一〇〇番
電話　編集・〇三―三二三〇―五一三四
業務・〇三―三二三〇―五三三三
販売・〇三―三二三〇―五七三九

印刷・製本――大日本印刷株式会社
用紙――三菱製紙株式会社

＊著者検印は省略いたしました。　＊造本には十分注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。　＊本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan　ISBN4-09-656012-X
© Mushakōji Saneatsukai 1989

目

次

湖畔の画商……一
『湖畔の画商』
上海まで……四
横浜のハトバ ― 最初の失敗 ― 船　室 ― 老英国人と和服 ― 日本よさらば ― 揚子江 ― 上海の街で逢つた人・魯迅・トーキー新旧上海・上海よまた
南十字星の下にて……一〇
船中読書「ヒツトラー」伝 ― 台北動物園の蛇 ― 南方の満月 ― 船中案内録 ― 南十字星見ゆ ― 香港・強烈な花の咲く印象・モダンタイムス ― 潮をふく鯨・飛魚は石切りの石の如く孤独感 ― 日本式と西洋式
航海中の日記より……一六
五月十四日・シンガポール・印度兵の銃殺 ― 五月十五日・スコール ― 五月十六日・ペナン・涙ぐむ孤独 ― 五月十七日・荒模様 ― 五月十八日・ます〳〵荒模様 ― 五月十九日・母の夢・旧友松村務男の死・日暮れてやや淋し ― 五月二十日・西洋男女・船に弱い両大関・コロンボ上陸
地中海にて……二〇
船旅三十日 ― 紅　海 ― 日本人の船 ― 灰色の恐ろしい島 ― アデンの熱さとラクダ ― エヂプトのロバ ― シンガポールの野生猿 ― イルカの親子 ― 地中海で見る東京駅の映画 ― マルセーユにつく喜び
ベルリンにて（一）……二三
映　画 ― ウイリー・フオルストの「アロトリア」 ― キープラの「日光の内で」 ― 芝居・「フイガロの結婚」・「ハムレツト」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ベルリンにて（二）……二八
午前三時に鳴く雀 ― 右側を走る自動車 ― 紙塵の落ちてない街 ― 動物園 ― 片輪の発見出来ない水族館 ― 昆虫館の沢山の蛇 ― 「自然は無遠慮にへんてこなものをつくる也」 ― 再説シンガポールの野猿 ― 白人種黒人種 ― ピラミッド見物 ― シルレルの「群盗」と「フイガロの結婚」 ― 雨の降らないところ
ベルリンにて（三）……三四
腰かけ人種 ― 国立美術館 ― セザンヌ個展 ― 初めての記・ネクタイ・安全剃刀 ― 日本語 ― ヤーヤいつて丸坊主にされた理髪店の話 ― 絵画の精神 ― クロイツベルヒの舞踊 ― 芸術の力 ― レンブラントの「ダリラの勝利」
オリンピック伯林スタヂアム通信……四六
仏人のナチス式挨拶 ― 百米予選 ― 敗れたる村社 ― 余裕ある無表情 ― 初めての日章旗 ― 十六年の躍進 ― 西田！ 西田！ ― 君が代の感激 ― 鼻高々 ― 水泳日本 ― 日本デー ― 背泳の白熱戦
オリンピック回想……五三
北欧見聞……五六
危かつた話 ― 人類の運命 ― イブセンの墓 ― 日本の陶器 ― 独仏の画家 ― 孤独の魂 ― 忘れ得ぬ感激
レンブラント其他……六四
「夜番」より受ける巨大な劇的シーン・「織工組合幹事」・「ユダヤの花嫁」・「ペテロの否定」・「ソールとダビデ」・文豪の写真・北欧の美術館と日本の美術館・日本にもありたい西洋美術館

美術館を見る……七〇
ベルリン美術館・エジプト、ギリシヤ芸術・ゴオホの絵 ― ナチオナル・ガレリー ― カイザーフリードリヒ・ムゼウム ― ムゼウムの東洋美術・ドレスデンで見たチチアンの「白衣の女の肖像」とレンブラントの「赤い花を持つたサスキヤ」 ― 素描の力・無限から生命の泉を吸ひとつてゐる絵
ウヰン通信……七五
ドレスデンで送り出されて、ウヰンで受けとられる荷物の様に一人旅 ― クンストヒストリツシユ・ムゼウム ― 孤独の魂の迫るチヽアンの絵 ― 名画を歌ふ
ナチス党大会……七七
卅万の端役 ― 雄弁と熱情 ― 名画は語る ― モツアルトの「魔笛」 ― ヒツトラーとの握手 ― 外遊の信条
ルチエルンより……八二
トルストイの泊つたホテル・クルベーの鱒の図 ― バーゼルにてセザンヌ個展 ― フイールワルド湖のほとりに観ず・独逸人の気質 ― ホドラーの画・墨を惜むこと千金の東洋画の味
伊太利の旅……八九
羅馬まで・ミユンヘンで観たハウプトマンのコレグー・クランプトン ― 湖畔の画商 ― ミラノ風景 ― レオナルドのセント・ヂエローム・芸術品は世界語で話す ― バチカン宮殿・ラフアエル・ギリシヤ彫刻・ミケルアンゼロのシスチンとモーゼ
ナポリ・ポンペイ……九五
ナポリ旅愁・聖フランシスの跡 ― イタリーの贋金 ― 偉大なる美術品の国 ― ポン

ペイの案内人 ― 痰唾を盛んにはく人達・ギリシヤ・ローマは亡びても支那は亡びなかつたこと ― 伊太利の空気・インヂアンと呼ばれたこと ― 親切な人に逢はなかつたナポリ・やかましい親爺にも旅させろ・偉大なる人間の仕事

ミケルアンゼロ其他……一〇三

超人ミケルアンゼロ ― フラ・アンゼリコのセント・マルコの壁画 ― セザンヌの個展

巴里……一〇七

ロダンの美術館 ― ベートベン祭 ― 美術好きにいゝ都 ― ルーブル博物館 ― パリで使つたモデルについて

マチス・ルオー・ドラン・ピカソ訪問記……一一二

心と心に相通ずるもの ― 饒舌家ルオー ― 色彩の美食家マチス ― ドランの十年がゝりの画 ― 再度ルオー訪問・彼から絵を買つた話 ― 好漢ピカソ・彼から絵をもらつた話・お礼は一本の筆と筆まきと ― 四人の仕事

ロンドンの思ひ出……一二四

地下鉄 ― 美術館 ― ブラツク、マチス、ピカソの三人展 ― 理髪店 ― 日本の宿屋 ― 旅の小記憶

大西洋上のいたづらがき……一二六

アメリカで見た画から……一三二

個展 ― メトロポリタン・ムゼウムにて ― ドウミエ ― 画家比較論

太平洋上日記……一三八

ホノルヽでのうれしかつた話 ― 世界一週終る・パパやせちやつた
欧洲旅行雑感……一四五
斎藤の電報（追記）……一四七
後書き……一四七
『欧米旅行日記』
序……一五〇
出発からマルセーユまでの船中にて……一五〇
ベルリンにて……一八三
北欧の旅中にて……一八五
プラーグへの車中にて……一八九
大西洋上にて……一九〇
アメリカにて……二〇七
太平洋航行船中にて……二一六
後書き……二三一
美術論集……二三三
〔口絵・解説〕……二三五
序……二三八
一部　美に就て
美に就ての断片……二三九

美の追求……二四四
美に就ての雑感……二四五
画家と美……二四八
本当の画……二五〇
いゝ画を見る喜び……二五一
写生に就て……二五三
偶　感……二五四
芸術の価値……二五五
東洋画と西洋画……二五七

二部　東洋画に就て

日本の南画について……二六〇
南　画……二六三
支那の画を……二六五
梁楷の出山の釈迦、其他……二六五
石濤雑感……二六六
八大山人雑感……二六八
李龍眠のある画を見て……二七二
牧　谿……二七二
禅月大師の羅漢を見る……二七三
自分の好きな日本画家三四……二七六

雪舟の益田兼堯像……二七八
大雅堂に就て（一）……二七九
大雅堂に就て（二）……二八〇
大雅堂の五百羅漢……二八一
木米の画……二八二
宗達の草花の画……二八三
北斎雑感……二八四
文晁……二八七
白隠の絵……二八八
腕の冴え……二八九
武蔵の画……二九〇
鉄斎……二九一
富岡鉄斎（一）……二九一
明治以後の最大芸術家……二九三
富岡鉄斎（二）……二九四
三部　西洋画に就て
レンブラント（一）……二九六
レンブラント（二）……二九六
レンブラントの絵に題する……三〇二
老いたるレンブラント……三〇三

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

アンリ・ルーソーの画を見て……三〇三
アンリ・ルーソーの子供の画を見て……三〇七
ラファエルの二つの画……三〇八
ゴヤの画に就て……三一〇
デユラーの聖ゼエローム……三一四
チントレツトよ……三一四
ルノアール、セザンヌを見て……三一五
ドラクロアのパガニーニの画……三一六
ホドラー……三一七
ブレークについて……三一七
ブルデルの画を見て……三一八
マチスの言葉……三一九
好きな画……三二〇
バン・ゴオホ……三二二
ゴオホの二面（旧作）……三二三
ロダンと人生（旧作）……三二七

四部　現代の画家に就て

生きてゐる画と死んだ画……三三〇
日本画雑感……三三三
日本画に就ての断片……三三四

岸田劉生思ひ出……三三六
岸田の画……三四二
梅原龍三郎の芸術……三四三
梅原龍三郎の個展を見て……三四五
梅原の最近の画……三四六
土田麦僊の画……三四八
村上華岳の芸術……三四九
古径、靫彦、華岳……三五〇
美人画雑感……三五二
安田靫彦君……三五四
靫彦の孫子勒姫兵……三五五

五部　自分の画に就て

芸術雑感……三五六
真剣に生きる男を見る……三五七
自戒その他……三六〇
　根　気　一　いけない　一　碁打は　一　静　物
画の仕事……三六一
感　想……三六三
新しいと云ふことに就て……三六五
自分の画について（一）……三六七

自　惚……三六九
画家としての自分……三七〇
画をかく時……三七一
こつ〳〵……三七二
隠世造宝……三七三
柿と蜜柑の画……三七三
ある画の讃……三七五
個　展……三七五
個展について……三七八
自分の画について（二）……三八一

東西六大画家……三八五
序文がはり……三八七
画人としての富岡鉄斎……三九五
レムブラント……四〇五
梁楷の人物画……四一四
雪舟に就て……四二三
ラファエロ……四三二
ポール・セザンヌ……四三九
挿画解説……四四六

美術を語る……四四九

口　絵……四五一
序……四五三
東洋と西洋の美術……四五四
牧谿讃美……四六二
ミケルアンゼロに就て一寸……四六六
美術の世界は広大……四六八
一つの花鳥画……四七二
バン・ゴツホの画……四七五
黒牛の図……四八二
明治以後の画家に就て一寸……四八三
伴大納言絵詞……四八五
薬師寺の吉祥天図……四九二
清滝権現図（絹本着色、縦二尺八寸横一尺四寸一分）……四九四
弘法大師の画……四九五
日本の三大画家……四九六
元　信……五〇〇
道安の静物……五〇二
将来の日本画……五〇三
西洋の好きな近代の画家達……五〇五

ミレー　ドーミエ　スーラ、アンリ・ルツソー
画が好きになつた径路及び未来の夢……五一二
自分の好きな芸術……五一五
梁楷の鶏骨図と武蔵の闘鶏図……五二一
美術讃美……五二二
再び土佐光長に就て……五二八
「聖衆来迎図」……五二九
画の仕事はよき哉……五三一
マンテニアに就て……五三二
三和尚の画……五三四
三人の興味を持つ日本の画家……五三六
画の価値……五三七
挿画に就て……五四二
武者小路実篤画集と画論……五四五
〔画集〕……五四七
〔画論〕
自分の画集に就て……五四九
画をかく時……五六一
個性　一筋の道を歩くなり　馬鈴薯　雑草　美　美神と人間　自分

の画 ― すぐれた画を見ると ― 自分を生かし切れ ― 真剣に仕事をする男 ― 自戒 その一 ― 自 戒 その二 ― 勉 強 ― 画がうまくつて ― 自分の画 ― 一人の画家 ― 一つの線 ― 進 歩 ― 五十七歳 ― 自分の理想 ― 夢 その一 ― 夢 その二 ― 雑 草 ― 何度かいても ― かきたいもの ― 朝晩山を眺めて ― 山 ― いろいろのもの ― 美人画 ―近代で― ― 今後の自分の画 ― 木の葉 ― 今杉の木を ― 自然の傑作を見ること ― かく時に ― 自分の画 ― 誰でも画はかける ― 一心 ― 原稿書かうと思へども ― 臆病に ― 僕は鉄斎の弟子か ― 子供らしい興奮 ― 進 歩 ……五八三

美術雑感 (一) ……五八五

雑誌「白樺」

挿絵に就て〔一九一四・七〕 ― 挿画説明〔一九一五・三〕 ― 挿画に就て〔一九一五・四〕 ― 挿画の説明（つけたり、云ひわけ）〔一九一五・六〕 ― ロダン（「ロダンの言葉を読んで」）〔一九一八・一〕 ― ロダン談（エレン・ケイ）〔一九一八・一〕 ― 室の画〔一九二二・七〕 ……六一〇

雑誌「不二」

人物評〔一九二四・四〕 ― 雑 感〔一九二四・五〕 ― 人物評追加〔一九二四・六〕 ― 「筆の向くまゝ」より〔一九二四・七〕 ― ロダンとブルデル〔一九二四・九〕 ― 唐 画〔一九二四・九〕 ― エジプトの彫刻〔一九二四・九〕 ……六二〇

雑誌「大調和」

口絵について〔一九二七・四〕 ― 口絵について〔一九二七・五〕 ― 明治大正名作展を

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com